

ANNUAL REPORT

2021年度 活動報告書

Rural Innovation Lab

KOBE UNIVERSITY
TAMBASAYAMA

神戸大学・丹波篠山市
農村イノベーションラボ



ANNUAL REPORT 2021



農村の未来を創る「地」と「知」の拠点

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ+丹波篠山フィールドステーションは、農村地域の課題解決と発展のため、現場発のイノベーション、地域に根ざした教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点です。2007年に締結された神戸大学と丹波篠山市との地域連携協定のもと、神戸大学大学院農学研究科地域連携センターが中心となり運営しています。

丹波篠山には、戦後、神戸大学農学部の前身である兵庫農科大学が設立され、1966年の国立移管までの間、多くの学生や研究者が学び、研究してきました。その後、当時を知る人々が少なくなる中で改めて関係性を再構築し、「地」と「知」の発展のため、連携して活動をおこなうこととしました。

その活動の一環として、丹波篠山フィールドステーションの開設、大学生が農家に学ぶ実践農業入門や専門知識を活かし現場で実践する実践農業などの「食農コープ教育プログラム」の開講とともに、さまざまな共同研究やプロジェクトがすすめられてきました。2014年からは、地域人材育成の一つとして、大学生・大学院生が丹波篠山に住みながら自身の専門知を活かし地域の課題解決を目指す「半学半域」型の地域おこし協力隊制度を導入しました。現在では起業を目指す社会人にも門戸を開き、地域資源を活用して受入地域の課題解決を目指す「起業支援型」にも展開しています。また、「食農コープ教育プログラム」をきっかけとして、学生が自主的に学生団体を結成し、地域の課題解決や地域住民との交流活動を行っており、今年活動10年目を迎える団体もあります。そうした活動蓄積の上での新たな取り組みが2016年に篠山口駅構内に開設した神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボです。

これらの活動をより広く多様な連携につなげて持続的に発展させるために、2022年1月に、一般社団法人 EKILAB. を再編して、一般社団法人丹波篠山キャピタルを設立しました。地域に根ざしたビジネスづくり、地域でのチャレンジの支援をおこなうとともに、新しい農村社会像を描くような、価値創造的で、実践的な研究に取り組んでいきます。



地域連携を支える3つの取り組み

1 地域創造研究

農村地域の課題解決を目指し、新しい価値を生み出すような研究をおこないます。また、自主共同研究の実施、および研究者等が丹波篠山市で実施する調査研究の支援を通じて、現場とともに社会実験を進め、他地域へ展開可能な地域課題の解決および地域のより良い発展を目指します。



丹波篠山で実践されている研究の多くは学会だけでなく、市民に向けても広く発表しています。

2 地域人材育成

丹波篠山や農山村地域を舞台に活躍する学生や若手実践者など、地域発展と課題解決を目指したイノベーターたちの学びや挑戦、成長をサポートします。「食農コープ教育プログラム（大学生向け）」や「篠山イノベーターズスクール（社会人向け）」など、地域に根ざした実践的な学習プログラムを企画支援します。



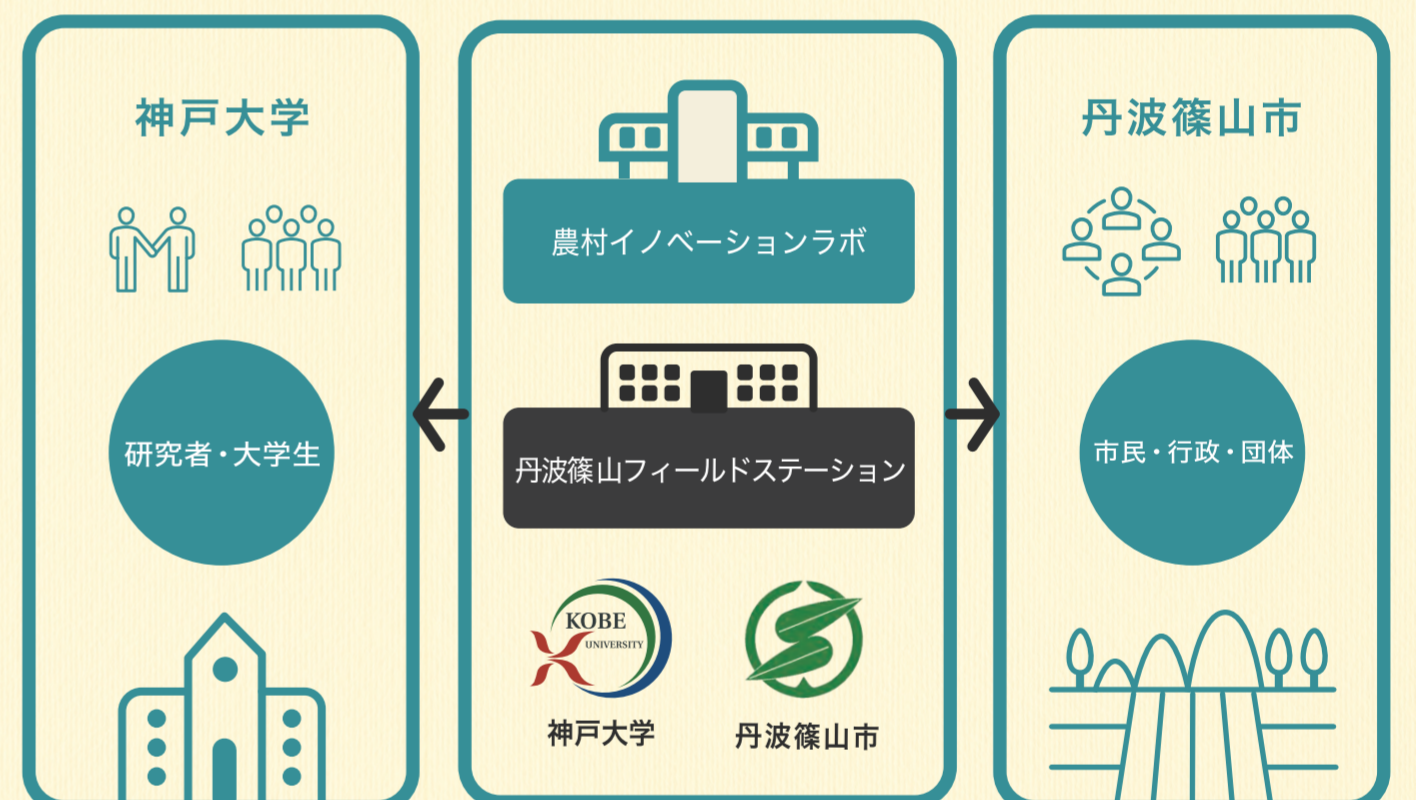
大学生から社会人まで農村を舞台にした多様な人材育成プログラムを実施しています。

3 活動・情報支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援し、地域情報の共有と創造を進めます。各種ワークショップやセミナーなどを開催するとともに、地域づくり活動、政策についてのアドバイスやサポートもおこないます。



各種の成果発表会やセミナーなどを通じて大学の取組や事業を公開しています。



プロジェクトスタッフ 大学研究者をはじめ、若手研究者や実践家など分野を問わず多様なスタッフが運営しています



田中丸 治哉
リーダー
神戸大学大学院
農学研究科 教授



中塚 雅也
ディレクター
神戸大学大学院
農学研究科 教授



清水 夏樹
サブディレクター
神戸大学大学院農学研究科
特命准教授



河川 英樹
コーディネーター
神戸大学大学院農学研究科



塩山 沙弥香
コーディネーター
神戸大学大学院農学研究科



梅谷 美知子
コーディネーター
神戸大学大学院農学研究科



谷垣 友里
プログラムマネージャー
一般社団法人 EKILAB.
(丹波篠山キャピタル)



鎌田 悠子
コーディネーター
一般社団法人 EKILAB.
(丹波篠山キャピタル)



瀬戸 大喜
コーディネーター
一般社団法人 EKILAB.
(丹波篠山キャピタル)



大井 弘子
事務員
一般社団法人 EKILAB.
(丹波篠山キャピタル)

Rural Innovation Lab

KOBE UNIV. TAMBASAYAMA

神戸大学・丹波篠山市
農村イノベーションラボ

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ
〒669-2212 兵庫県丹波篠山市大沢165-3
Phone/Fax. 079-506-6628
<https://tscapital.jp>
info@tscapital.jp

丹波篠山フィールドステーション
丹波篠山市役所
篠山城址
丹波篠山IIC
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ

丹波篠山フィールドステーション
〒669-2324 兵庫県丹波篠山市東新町4-5
Phone/Fax. 079-506-2366
<https://sasayamalab.jp>
fs@tscapital.jp

まち・ひと・しごとの創造的な循環を生み出す

1 地域創造研究



兵庫県丹波篠山市に連続分布するニホンザル群の農地利用の季節性
清野 未恵子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授)
KEYWORD ニホンザル、採食生態、地域個体群、農地依存度把握



人材育成プログラムの開発とプラットフォーム形成
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 人的資源管理、起業・継業、丹波篠山キャピタル



地域在来の小規模醤油製造業の継承戦略
靄井 淳生 (神戸大学農学部学生)
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 小規模醤油事業者、外部人材、事業継承



高齢者の黒豆栽培継続における問題点と支援方策
木下 七海 (神戸大学農学部学生)
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 農福連携、高齢者、作業負担、モチベーション



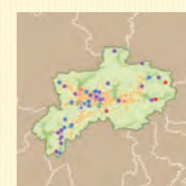
丹波篠山市内の圃場毎営農状況の自動判別法の開発
長野 宇規 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 農地土地利用、リモートセンシング、耕作放棄、地域計画



データ収集方法によるニホンザル加害群の遊動域推定の違いとオープン・シェア化による保全管理の可能性
清野 未恵子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授)
KEYWORD GPS、サル監視員、遊動域(行動圏把握)、保全管理



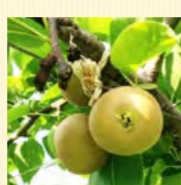
篠山城南堀蓮花の再生
鈴木 武志 (神戸大学大学院農学研究科助教)
KEYWORD 篠山城蓮、蓮一斉枯死、侵略的外来種



農村移住者による起業の地理的立地条件と集積形成
谷川 智穂 (丹波篠山キャピタル)
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 農村移住、田園回帰、起業、集積、空間分析



持続可能な集落機能維持に向けた地域づくり戦略に関する研究
清水 夏樹 (神戸大学大学院農学研究科特命准教授)
KEYWORD 集落機能、担い手、移住者



新しい特産品づくりに関する研究—香りヤマナシ栽培の可能性—
片山 寛則 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD イワヤマナシ



産後のマイナートラブルと生活習慣に関する調査研究事業
小野 玲 (神戸大学大学院保健学研究科准教授)
向所 真音 (神戸大学大学院保健学研究科学生)
KEYWORD 産後、マイナートラブル、腰痛骨盤痛、抑うつ、尿もれ



兵庫県丹波篠山市における市史編纂事業のための研究と検討
奥村 弘 (神戸大学大学院人文科学研究科教授)
松本 充弘 (神戸大学大学院人文科学研究科特命助教)
KEYWORD 丹波篠山市史、地域社会、地域歴史資料

2 地域人材育成

食農コープ教育プログラム

実践農学入門 (履修者: 49名)

地元農家に師事し、農作物の栽培やむら仕事を体験しながら、農業や農村生活に関する理解を深めます(6回)。また、体験から得た知識をもとに、地域の課題解決に向けた提案を考えるためのワークショップを含む校内学習(3回)を実施しました。講義以外の農村体験活動やボランティア活動への参加は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で履修要件としませんでした。2021年度は、西紀北(草山)地区の14戸の方々にお世話になって、黒大豆、栗、カパープラント、小豆、米、野菜などさまざまな農業に関わる作業を体験しました。



農作業を体験
各受入農家さんに教わりながら、黒大豆やクリなどの栽培作業を年間を通じて体験しました。



地域の暮らしを体験
農産物の調理や保存の方法を教わるなど、地域の自然の恵みを食を通じて体験しました。



成果発表会
地域の農業や生活から学んだことをもとにワークショップ形式でグループワークを行い、イノベティブな視点で地域課題の解決策を提案しました。

© fandacoop

実践農学 (履修者: 37名)

調査やプロジェクトに実際に参加し、農村地域における現状課題を調査・分析するとともに、課題解決に寄与する取り組みや施策の企画立案から検証実験までのプロセスを理解することを目指します。2021年度に実施した4グループのうち、丹波篠山エリアでは「多世代交流拠点づくりグループ」が2つのチームに分かれて各地域の方々にインタビューし、地域ニーズを実現するような拠点づくりを試みました。



神戸大学マルシェ
子育て世代に人気の「アグリ緑日」で地元野菜の直売コーナーを企画



地域課題ヒアリング
地域課題や地域への想いをヒアリング



空き家活用
空き家となっている古民家を地域住民の憩いの場とする提案

実践を通しての学習プログラム

CBL

丹波篠山を舞台にした地域プロジェクト実践を通じて、地域ビジネス実践者に、その技術やノウハウ、理念などを学ぶ学習(Community Based Learning)です。限定8名の少人数制で、スクール生それぞれのビジネスモデルのヒントになるプログラムを設計しています。



里山資源を活かしたスモールビジネスをつくらう



加工特産品を開発しよう



地域をプロデュースするチームをつくらう



農村発プラットフォームビジネスをつくらう

篠山イノベーターズスクール

(第6期生履修者: 33名) (第7期生履修者: 35名)

セミナー

大学教員や実務家による講義形式のセミナーです。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講義の一部はオンライン併用で実施しました。対話と事例を重視しながら、地域でビジネスや活動をおこなう上で必要とされる、基礎的な理論や考え方を学ぶことができます。全6つのセミナーが開講され、スクール生は、各自のテーマや興味関心に合わせて3つのセミナーを選択・受講し、ビジネス創出に必要な基礎知識や手法を学ぶことができます。



食と農の流通とマーケティング
岸上 光克
和歌山大学食農総合研究所 教授



ビジネスモデルデザイン
岡田 明徳
一般社団法人関西dラボ 代表理事
ビジネスモデルイノベーション協会 理事



農村イノベーション
中塚 雅也
神戸大学大学院農学研究科 教授



起業のためのファイナンス
忽那 憲治
神戸大学大学院 経営学研究科 教授



地域の成り立ちと構造
横山 直敬
兵庫県丹波の森協会丹波の森研究所 専門研究員



コピーライティングとデザイン
二階堂 薫
コピーライター

Instagram: sasayamainnovatorsschool

Twitter: s_inno_school

https://school.tscapital.jp



地域おこし協力隊

丹波篠山市地域おこし協力隊は、①現役の学生や大学院生・大学等研究員が協力隊員となって、学業と並行して調査研究を行いながら受入地域の活動を支援する「半学半地域型」と、②地域資源を活用して起業を目指す人が協力隊員となり、成果を地域に還元する事業を行いながら受入地域の活動を支援する「起業支援型」の、2つの活動形態を設けています。学生の挑戦する力と起業・研究といったそれぞれのアプローチから地域課題の解決を目指すとともに、挑戦的な事業を展開していきます。2021年度は6名の隊員が市内各地で活動しました。



起業支援型
仲田友香 (2019.10~2021.9)
「Aoshiki GUEST HOUSE」
● 福住地区



起業支援型
佐藤大洋 (2020.4~2022.3)
「泊まれる学校おくらむ村」
● 大手地区



起業支援型
廣川景俊 (2020.4~2022.3)
「バニマルチャーを实践できる場づくり」
● 大山地区



起業支援型
杉田かなえ (2021.4~)
「ジコモ Farm」
● 岡野地区



起業支援型
村上真実美 (2021.4~)
「食と農をつなぐ場所づくり」
● 城南地区



起業支援型
中園千夏 (2021.4~)
「心豊かに笑って生きる」
● 今田地区

3 活動・情報支援

セミナー・イベント開催

164件

神戸大学・篠山市農村イノベーションラボでは、篠山イノベーターズスクールでセミナーやCBL、また、受講者による自主的な勉強会が開催されました。オンラインの活用によって多くの方にイベント等に参加してもらえるように工夫を進めています。また、丹波篠山市に関連する大学の活動・研究の成果発表・情報共有を行う「第2回丹波篠山研究発表会」には、オンライン情報共有も合わせて91名が参加し、活発な情報共有、ネットワーキングが行われました。

視案件数

8件

大学と地域との連携、地域おこし協力隊のコーディネートに関して、行政団体や大学、民間企業などの視察、市外の企業からの協働プロジェクトの提案がありました。また、丹波篠山市に移住してリモートワークや起業をしている方々などから、フィールドステーションのシェアオフィス利用についての問い合わせが増えてきています(登録制で利用可能)。イノベーションラボでは、イノベーターズスクール受講者からの提案で、毎週定期的に交流のためのコワーキングスペース開放を試行しています。

相談件数

170件

地域の方からの地域おこし協力隊の受入れの相談、市外からの応募希望者からの活動内容の相談などにきめ細やかに対応しています。丹波篠山研究発表会やSNS・メディア取材などでの発信を受け、地域内外から地域共同研究への問い合わせや事業プロジェクトの相談も寄せられています。神戸大以外の複数の大学の学生からも丹波篠山市での研究・活動について相談があり、大学と地域の連携拠点としての機能が認知されてきています。

施設利用件数

135件

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、セミナーやシンポジウム、研修や会議がオンラインで実施されており、配信スタジオや視聴会場として多くの利用がありました。フィールドステーションのシェアオフィス、コワーキングスペースとしての利用も多く、インターネット環境やオンライン会議に向けたカメラ・マイク等の設備を充実させました。延べ利用人数は2,189名でした。

学生活動団体

丹波篠山市内で実施されてきた実践農学入門や実践農学に参加した学生らが自主的に学生団体を結成しています。活動目標や取組内容は様々で、それぞれが特色やこだわりを持って地域と連携した活動を行っています。2021年度も新型コロナウイルス感染拡大のために活動が制限されましたが、農産物の販路・商品開発など新たな活動にも取り組みました。



地域密着型サークルにしき恋

● 西紀南地区

2013年結成。2021年度は農家さんのアドバイスをいただきながら、栽培した丹波黒大豆のオンライン販売にも挑戦しました。1月には、全国農協観光協会主催「第2回学生地域づくり・交流大賞」で賞状を受賞しました。



国際農業サークルAGLOC

● 岡野地区

2016年結成。2021年度は11月に「アグリ緑日」×神戸大学マルシェに参加。試作を重ねた、地元の野菜を使ったベジタリアン料理を販売しました。



丹波篠山学生活動団体連絡協議会(さざ連)

● 丹波篠山市

各学生活動団体が集まり、丹波篠山市全体の活性化を目指して、活動内容の共有や地域の枠を超えた連携を図っています。年度末の丹波篠山研究発表会では他大学の学生とも交流がありました。